

東日本大震災からすでに2ヶ月が経過しました。日本核医学会の会員の方の中にも、犠牲になられた方がおられるかもしれません。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、ご遺族の皆様にお悔やみ申し上げます。また、現在も敢闘されておられる方々が、1日も早く平穏を取り戻されることを祈念いたします。

地震・津波による福島第一原発事故は、現在は小康状態となっておりますが、終息までには数々のハードルがあるのだらうと想像します。3月11日以降の諸々の事柄に、日本核医学会事務局も本編集委員会も対応に追われました。日頃放射性医薬品を扱うプロフェッショナルとして、市民の皆さんに冷静に対応していただきたいという思いで、複数のアナウンスをしてきました。これらのアナウンスに対して、多くの方が千差万別の反応を示されました。冷静さを取り戻した方々が多くおられたと推測される反面、真実を隠す趣旨なのかという罵倒にも似た意見が多々ありました。限られた情報から状況を把握しアナウンスをするのは、ある意味綱渡りであるとい

うことをしみじみ実感しました。しかし、総じて当学会のアナウンスは有効に働いたものと思います。

さて、ゼヴァリンやメタストロン治療予定の患者さんが、今回の原発事故後に、放射能に懸念をもち治療を中止としたという事例が生じたことを当該メーカーからお聞きしました。また、PET検査が中止になった例も出ているようです。このような誤解が今後増える可能性を否定できません。日頃の診療の中で患者さんから問いかげられた時には、誠心誠意説明してください。また、核医学診療に変な向かい風を作らないために、放射線管理を今まで通り厳重にいたしましょう。

今後、低線量であるとはいえ被ばくされた市民の方々や、原発のコントロールに尽力していただいている作業員の方々の健康調査を長期間にわたって行う必要があることと思います。二転三転する政府の対応に憤りを感じますが、われわれは科学的な目でこれからも意見を発信する必要があります。

Nature の editorial (4月14日) は、われわれがどのように行動すべきかを述べています。(絹谷 清剛)

核医学編集委員会

委員長：絹谷 清 剛 (金沢大学医薬保健研究域医学系核医学)
 副委員長：佐々木 雅 之 (九州大学大学院医学研究院 保健学部門医用量子線科学分野)
 委員：石井 一 成 (近畿大学医学部 放射線医学講座 放射線診断学部門)
 犬伏 正 幸 (放射線医学総合研究所 分子イメージング研究グループ)
 河邊 讓 治 (大阪市立大学大学院医学研究科 核医学科)
 河村 和 紀 (放射線医学総合研究所 分子認識研究グループ)
 久慈 一 英 (埼玉医科大学国際医療センター 核医学科)
 下瀬川 恵 久 (大阪大学大学院医学系研究科 核医学講座)
 立石 宇貴秀 (横浜市立大学大学院医学研究科 放射線医学講座)
 橋本 順 (東海大学医学部基盤診療学系 画像診断学)
 東 達 也 (滋賀県立成人病センター研究所)
 渡部 浩 司 (大阪大学大学院医学系研究科 医薬分子イメージング学寄附講座)

「核医学」第48巻2号 平成23年5月31日発行 本号定価 ¥1,800

編集兼発行者 絹谷 清 剛

〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-45 (社)日本アイソトープ協会本館3階

発行所 一般社団法人 日本核医学会

振替口座 00180-5-741770 番

電話東京 (03) 3947-0976 FAX (03) 3947-2535

E-mail: anm@xvg.biglobe.ne.jp

ホームページ: <http://www.jsnm.org/>

印刷所 株式会社 海川企画

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里2-51-1

電話 (03) 3806-0961 (代) FAX (03) 3806-0848

広告申込所 〒102-0071 東京都千代田区富士見2-12-8 電話 (03) 5226-2791 (代) 日本医学広告社